Off Time
オフタイム

聞こえていますか？小さな子どもの心の声、お願いのことば

著者が小学校教諭であったときに出会った、七夕の日の１枚の短冊。
いつも怒られてばかりの小さなこどもの、一生懸命の祈りの言葉から、この絵本はうまれました。

おこだでませんように

2008 年　小学館

くすのき　しげのり（著）
石井　聖岳（絵）

[2000]

「くすのき　しげのり」児童文学作家、童謡詩人
小学校教諭、鳴門市立図書館副館長を経て、児童文学創作活動、講演活動等で活躍。『ともだちやもんな、ぼくら』、『あたたかい木』他、多くの作品がある。　※教育関係の書籍は「楠　茂宣」名義

「石井　聖岳」絵本作家
学童保育でアルバイトをしながら子どもの本専門店の絵本塾に通い、２０００年『つれたつれた』でデビュー。『森のイスくん』、『ふってきました』、『ツェねずみ』他、多くの作品がある。

表紙を開くと、小学校の校舎。大きくひろがる青い空に白い雲、風にそよぐ木々。学校の近くにはマンションが建ち、赤い屋根、青い屋根の家の窓が見えています。そう、どこの街にもある見なれた風景から、この「ものがたり」は始まるのです。

★最初の見開きには、ランドセルを背負った小さな男の子が、ちょっと悲しそうな顔で帰宅する姿が描かれています。
すぐ近くには、赤い屋根のアパートの階段。男の子は小石をひとつ、こっつーんと蹴りました。その様子を、まぁるい目をした猫が石垣の上で見ています。「どうしたの」と言いたげな表情で。絵のなかの、男の子の心の声が聞こえてきました。
「ぼくはいつもおこられる。家でも、学校でもおこられる。どないしたらおこられへんのやろ」。

★小さな男の子の日常が、力強いタッチの絵と、やわらかな関西ことばで、次々に展開されていきます。

★ぼくのおかあちゃんは仕事でときどき帰りが遅くなります。そんなときは妹と遊んでやります。
わがままをいう妹を怒ると、妹はおかあちゃんが帰ってくるまで泣きます。いったん泣きやんでも、おかあちゃんが帰ってくると、また泣き始めます。そんなとき、おかあちゃんは「ぼく」を怒ります。「また妹を泣かして！」と。
おかあちゃんに「そんなに怒ったら顔のしわがふえるで」と言ったら、やっぱり怒られてしまいました。
学校のやすみ時間のサッカー遊びで仲間外れにされた「ぼく」。友だちにキックをして泣かせてしまって、先生に「またやったの！」と怒られてしまいます。「ぼくだって、心のパンチ、受けたのに」。大きな声で歌を歌ったら、「もう少し静かにしなさい」と怒られてしまいました。何かいうと先生に怒られることを知っている「ぼく」は、黙って横を向いてしまいます。
夜眠る時も「ほんとうはええこやねってほめられたい。せっかく１年生になったのに、ぼくはわるいこなんやろか」と悩む「ぼく」。頭から布団をかぶって寝る姿や、寝床のまわりに描かれた黒くて大きな目が、悲しみと不安いっぱいの「ぼく」の心を語ります。

★７月７日、小さな短冊に、たなばたさまのお願いを書くことになりました。先生に「はようしなさい」と怒られたけれど、「ぼく」は一生懸命考えて、一番のお願いを考えて、習ったばかりのひらがなで、一文字ずつ、心をこめて書きました。
今一番の、大切な大切なお願い、★★**「おこだでませんように」。**★★
あらら、「ま」のくるっとまるくなるところ、左右反対向きだけれど「おこられませんように」のお願い、じょうずに書けているね。こんなにも心のこもった短冊、初めて…。愛しさがいっぱい生まれてきて、思わず絵のなかの「ぼく」に話しかけてしまいました。

★先生は短冊をじっと見て、泣きました。そしてその夜、先生からおかあちゃんに電話がかかってきて、二人は長い間話していました。電話のあとでおかあちゃんは、「ごめんね。怒ってばっかりやったね」と言って、「ぼく」をぎゅっとだきしめます。
「ぼく」のお願いはかなったのです！「ぼく」と「妹」はおかあちゃんのたからもの。二人をだきしめるおかあちゃんの幸せそうな顔。親子のやわらかなぬくもりが伝わってきます。子どもたちには、昼間のおひさまのにおいが残っていたのかもしれませんね。

「子どもの心のうちにあるおもい」、「まだ形にすることのできないおもい」に気づけるおとなって、幸せですね。
ぷいっと横向く子どもには、横向く理由があることを、その背景からつながる、今の行動があることを心に留めて、ページを閉じました。幸せいっぱいの「ぼく」の寝姿に、「よかったね」とつぶやきながら…。（みっと）